



Social workers with their best smile in Nagasaki Rehabilitation Hospital



We support the patients and families to reestablish their safety community life



Topics 愛くるしい少女の像がお出迎え

エントランスに新しい彫像「ハレルヤ!」がお目見えしました。

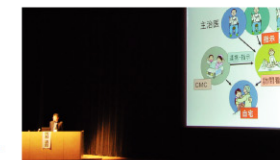
作者は、エレベーター前にある彫像「春の調べ」の作者である片山博詞氏。初め、当院の売店を運営している株式会社ライフテックの太田淑子社長が個人的に制作を依頼したのですが、「私一人で楽しむよりも、一人でも多くの方に鑑賞していただければ」と、片山氏の承諾を得て当院への寄贈が実現したもので、とてもかわいらしい出で立ちの「ハレルヤ!」は、片山氏のご令嬢がモデルだそうです。



片山博詞氏と「ハレルヤ!」

長崎で「回復期リハ病棟全国大会」

2月17・18の両日、「全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 第17回研究大会 in 長崎」が長崎ブリックホールを主会場に開催され、当院が事務局として準備にあたりました。長崎回復期リハビリテーション病棟連絡協議会のスタッフをはじめ、多くの応援をいただき、大会は無事に終了しました。



記念講演



発表



協議会事務局に感謝状を贈呈



Information

開院3周年を記念して 「三遊亭歌之介独演会」と 「ホルンと彫刻の調べ」

開院3周年事業として9月11日(日)、三遊亭歌之介の独演会を、11月6日(日)には、NHK交響楽団のホルン奏者、日高剛さんと彫刻家、片山博詞さんによるジョイントコンサート「ホルンと彫刻の調べ 観る・聴く・触れる」を開催します。(彫刻展は11月19日まで。作品に手を触れることができる展覧会です)

お問い合わせは事務部総務グループ企画広報(095-818-2002)まで

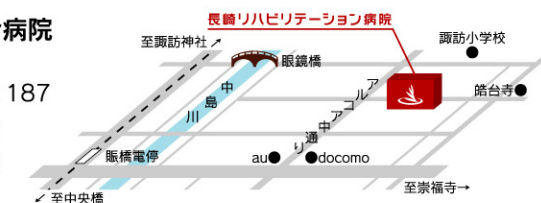
職員募集

当院では、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、介護支援専門員を募集しています。

詳しくは、当院のホームページまたは、事務部人事(☎095-818-2002)までお問い合わせください。

編集後記

社会福祉士の三種の神器「輝く笑顔」はいかがでしたか。仕事の合間をぬっての慌ただしい撮影でしたが、「目が笑っていません!」と何度も撮り直し、女優やアイドルの笑顔をめざしてみました。(西)





上柿元勝

Series 理事長対談
「病院食を見直す」Part.2

退院後も地域で支える仕組みが必要

栗原 介護保険が、その制度だったはずですが、それだけではすまない問題も多々あります。現代社会では、地域における人と人とのつながりが、だんだん稀薄になりつつあります。急速に高齢化が進み、独居老人や老老介護が増えて、地域本来の役割が見えてこないのが現実です。ムッシュが言われる通り、日本全体で地域を支えるシステム作りが欠かせないと思いますね。

長崎は急速な人口減少と高齢化が深刻な問題に

栗原 長崎は今、急速に人口が減り、高齢化が進んでいます。斜面の多い住宅地で、空き地や空き家が目立ちますね。昔、長崎の街は百万ドルの夜景と言われたんですが、今は四十万ドルぐらいではないでしょうか。(笑)

長崎の斜面にある住宅地は、もともとは段々畑だったんですよ。

上柿元 それでは、この空き地をまた畑に戻して、元気野菜を育てたらいいのではないですか。

障がいのある若い人が生き生きと輝く場所に

栗原 まさにそうなんです。私は、その試みの一環として、病院の屋上に畑を作ったんですよ。

斜面住宅地を昔のように畑に戻して、



かみかきもと・まさる
1950年、鹿児島生まれ。
1974年渡仏し、パリのレストラン「ル・デュック」、「ジャマン」、リヨンの「アラン・シャベル」など一流店で修行。1981年、神戸ポートピアホテル「アラン・シャベル」グランシェフ、

1991年からハウスデンボスホテルヨーロッパの総料理長などを経て、2008年、みらい長崎ココウォーク内に「パティスリー・カミーユ」を開店、オーナーシェフを務める。天皇、皇后両陛下をはじめ、モナコ国王などの国内外VIPの晩餐を担当。著書多数。

栗原正紀

くりはら・まさき 1952年、佐世保市生まれ。長崎大学医学部卒業後、長崎大学脳神経外科講師、十善会病院脳神経外科部長・同副院長、近森リハビリテーション病院院長などを経て、2006年、社団法人是真会理事長、2008年、長崎リハビリテーション病院院長。医学博士。



栗原正紀

長崎リハビリテーション病院は、栄養面だけでなく、見た目や食感、香りなど、工夫を凝らしたおいしい入院食を追求しています。フランス料理界のリーダーである上柿元勝氏と理事長の栗原正紀が、入院食のあり方や、地域が抱える問題点と、その解決に向けて語り合いました。

長崎リハビリテーション病院では、冷凍食材を避けて、地元で採れる旬の有機野菜・鮮魚を用いており、収穫に合わせて献立表を作成している。

教科書的視点を脱して患者さま本意の発想へ

栗原 これまで、一般的な病院で用意される食事は、教科書的な視点で、この患者さまにはニンジン何本、塩何グラムと計算するだけの料理で、おいしい食事を提供しているかどうかに、誰も疑問を抱いてきませんでした。

日本の医療はこれまで、食費を抑えることを考えてきました。ですから、限られた予算の中で、プラスアルファのおいしい料理を追求することが難しい世界なのです。

上柿元 限られた予算の中でも病院食や学校給食においては、無農薬野菜、保存料や着色料を使わない、体に優しく、食べて安心、見た目にもきれいな、おいしい料理を追求してほしいものです。

栗原 ごもつともです。私どもの病院は、元気で安心して、地域社会に向かっていただくための場です。可能な限り食料費を充実させたいですし、管理栄養士は栄養面だけでなく、見た目や食感、香りな

ど、食欲がわくような工夫をしていかなければならないと思います。

上柿元 栄養士の皆さんも、今まで以上に、実際に野菜のにおいをかいで、おいしそうな色とか、何百年も昔から日本人の知恵として伝えられている昆布ダシとか鰹節といった料理の旨味を研究して、病院の料理に取り入れてほしいですね。

長崎リハビリテーション病院では、大地といのちの会代表の吉田俊道氏に指導を仰ぎ、病院屋上での自家製コンポストを活用した有機野菜作りに、患者さまも参加して取り組んでおり、採れ立て野菜の一部は食卓に並び。



栗原 開院して早三年が過ぎました。私は今、これまでに元気に退院された患者さまが、ご自宅で健康的な生活を続けておられるのが、一番の気がかりなんです。

上柿元 患者さまが元気に退院されたあとも、国や県、市町村など行政が後押しする、地域がフォローするシステム作りが、まずは必要だと思いますよ。

そこで障がいのある若い方や、地域のお年寄りが無農薬の元気な野菜を作る構想を抱いています。

不幸にも若くして障がいを持たれると、なかなか仕事に就くことができないのですが、社会との関係が絶たれることのない場を作ることができれば、障がいのある方は、もつと生き生きと輝くことができるはずなんです。

上柿元 そこには働く喜びも生まれますし、おいしくて、すばらしい野菜や果物ができますよね。

栗原 病院も、その元気野菜や果物の消費の場所にすることができます。

上柿元 それは、物作りに必要な循環です。ムッシュもいっぱい使ってくださいませ。(笑)

上柿元 私も全国に向かってPRさせていただきますよ。(終)

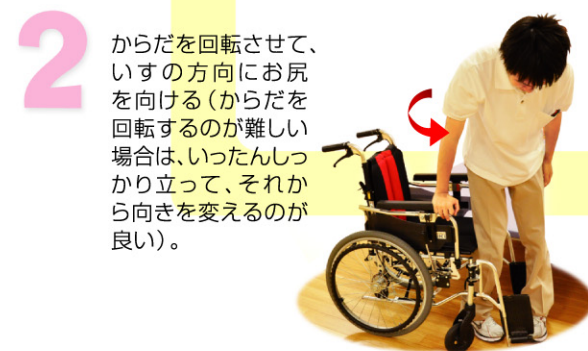
移乗動作 ~ベッドから一人で車いすに乗る~

これまで“座る”、“立ち上がる”をご紹介しました。“立ち上がる”の応用として、移乗動作があります。移乗とは、ある場所からいすに腰かけたり便座に座ったりする乗り移りのことです。今回は、移乗動作のポイントをお伝えしましょう。

○ 移乗動作~良いパターン~



前かがみになり立ち上がる



2 からだを回転させて、いすの方向にお尻を向ける(からだを回転するのが難しい場合は、いったんしっかり立って、それから向きを変えるのが良い)。



× ~悪いパターン~

いきなり車いすに向かうのは間違いです。乗り移ろうとする車いすに向かって、つい両手で、ひじ当てを持って立ってしまいますが、からだを回転させるスペースが極端に狭くなるため、動作が難しくなります。



車いすに深く座る

車いすから自動車へ移る場合(左後部座席)

自動車の種類を選ぶことも大事です。何かにつかまって立てる場合には、スライドドアよりも開きタイプのほうが手すりの代わりになるので便利です。



最初に手と頭から乗りこもうとしないで、開いたドアを手で持って立つと、お尻がシートのほうに向いて座りやすくなります。



お尻をシートに着けて次に頭を入れて、からだを回転させながら脚を入れます。自動車から車いすに移るときは、この逆の動きをします。




参考文献:大田仁史、三好春樹著『完全図解 新しい介護』(講談社・2003)

社会福祉士の 三種の神器

社会福祉士にとって欠かすことのできない仕事道具をご紹介します!
私たちは、それを「三種の神器」と呼んでいます。




1 PHS



- ご家族や関係機関、院内スタッフなどとの主な連絡ツールですので、常に携帯しています。相談の依頼や、患者さまに関する様々な情報をいち早く受けることができます。毎日の着発信の件数は数え切れないうほどで、1日で充電が切れることも。

2 筆記具



- 相談業務を主とする社会福祉士にとって、記録は欠かせません。いまやIT時代ですが、いつでも、どこでも、相談や連絡を受けられるように、そしてその内容を必要な機関やスタッフに正確に伝えることができるように、まず備忘録としての筆記具は必需品。私たちの援助業務は、この筆記から始まります。ボールペンのインクはすぐなくなってしまいます。

3 笑顔!

社会福祉士の8人は、患者さまやご家族からのご相談に応じ、一緒に考えていくことを仕事としています。開かれた相談窓口として、皆さんとのコミュニケーションを何より大事にしています。

8人の輝く(?) 笑顔へ、どうぞお気軽にご相談ください。



患者さまの権利の尊重

患者さまにはどのような時・どのような状態においても、人として尊厳が守られる権利があります。その権利を大切に、患者さまが自己の意思で主体的に疾病や障がい克服していただくように、わたしたちは願っています。また、わたしたちは、患者さま・ご家族との信頼関係に基づいた「患者さま中心の医療」を実践していきたいと思っています。

1. 最善の医療

患者さまには、誰でも、最善の医療を公平に受ける権利があります。

2. 人格の尊厳

患者さまには、その人格・価値観が尊重され、一人の人間として医療を受ける権利があります。

3. 納得と合意

患者さまには、病気・障がい・検査・治療・見直しなどについて、分かりやすい言葉や方法で納得できるまで、十分な説明を受ける権利があります。

4. 自己決定権

十分な説明を受けた上で、患者さまは治療方法などを自らの意思で選択し、決定する権利があります。

5. カルテの開示

患者さまには、自分のカルテの閲覧や複写、内容の要約や説明を受けるなど、診療記録の開示を求める権利があります。

6. プライバシーの保護

患者さまには、受診に関わる個人情報を守られ、プライバシーを乱されない権利があります。

7. 研究的医療

患者さまには、薬の治験（新薬の臨床試験）や治療法が確立されていない医療について、その目的や危険性など十分な説明を受けた上で、その医療を受けるかどうかを決める権利があります。同時にどのような不利益をも受けることなく、いつでもその医療を拒否する権利を持っています。

Work on
病院の取り組み

東日本大震災 被災地で自立支援活動を継続中



3月11日、東日本大震災が発生し、地元住民は今もなお、地震と津波、そして東京電力福島原子力発電所の放射能漏れによる被害のために、長期の避難生活を余儀なくされています。

そのような中、日本リハビリテーション医学会、日本リハビリテーション病院・施設協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本言語聴覚士協会、全国回復期リハビリテーション病棟連絡協議会、全国老人デイ・ケア連絡協議会、全国訪問リハビリテーション研究会、全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会・全国地域リハビリテーション研究会、日本介護支援専門員協会の10団体が、『東日本大震災リハ支援関連10団体総合戦略会議』を発足

させ、対策本部事務局を東京に立ち上げました。4月に各被災地の状況把握、支援地域の選定、ボランティア募集などの準備が始まり、5月からは継続的なりハビリ支援チームの派遣が開始されました。

当院では4月3・4の両日、作業療法士と理学療法士各1名を郡山市に派遣して、状況調査にあたりました。現在、後方支援として『東日本大震災リハ支援関連10団体総合戦略会議』対策本部事務局に1名、および長崎記念病院、長崎北病院のスタッフと共に、気仙沼市に理学療法士・作業療法士各1名が交代で赴き、リハビリを通して自立支援のための継続的な支援活動に取り組んでいます。



郡山市の避難所の様子



現地スタッフと支援活動について打ち合わせ



気仙沼市の仮設住宅で

Developers
病院を支えるブレインたち

売店のテーマは “ふれ愛広場”

一期一会を大切にするライフテック

1階の売店と喫茶コーナーを運営するのは、ライフテックの5名のスタッフです。売店に時々登場する、手作りのとてもおいしいデザートはスタッフの岡部さんが作ったもの。後で買いにいこうと思ったら売り切れていたということも。月曜日のお昼は手作りスープも販売しています。喫茶コーナーは外部の人も利用できます。お見舞いに来た人と歓談したり、本を読んだり、車での迎えを待ったり、自由に使っていただける空間です。何か注文しなければならぬということもありません。用事があるときは、スタッフに気軽に声をかけてくださいね。



太田淑子社長は書家の顔も持ち、当院の患者さまのために、ボランティアで「書」を使った作品作りを教えてくださいます。2カ月ごとにアクティブホールで行われる「書を楽しむイベント」をきっかけに、見学していたら、いつの間にか筆を持たされて、気がついたら素敵な作品が出来上がっていたという人も多かったです。最初は「本当に書けないです〜!!」と恥ずかしがっていた人も、太田マジックによって最後には必ず、素敵な作品を手に満面の笑みを浮かべています。

売店だけでなく、ライフテックは、院内に飾られている絵や押し花などのコーディネートや、入院患者さまのクリーニングの申込手続き、院内の配達作業も担当しています。病院スタッフだけでは行き届かない細やかなサービスを提供します。「売店のキャッチフレーズは“ふれ愛広場”です」と太田社長。

「いろいろな方とお話をする機会があるので楽しいです。悩みやストレスをかかえられている方も多いので、気晴らしや気分転換のお手伝いができればと思っ

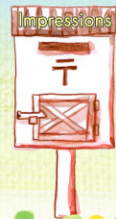
ています」
「退院されたあとに、コーヒーを飲み立ち寄りくださり、元気な姿を見せていただけるのは嬉しいです」
こんなスタッフの声からも、患者さまやご家族との温かい“ふれ愛”を大切にしている姿が伺えます。

株式会社ライフテック

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-3-1 赤坂ピア4階
TEL.092-724-6147 FAX.092-724-9494



聞いてみゆうde 患者さまの声



～退院された患者さまから嬉しい便りが届きました～

当院の各フロアに設置しているボイスボックス(ご意見回収箱)には、患者さまやご家族からさまざまなご意見やご感想が寄せられています。今回は、脳卒中を克服し、自立・復職をはたされた社会福祉法人 鳳彰會・ケアハウス ひこばえの苑施設長、杉町文子さまからのお便りをご紹介します。



ち

ようど1年前のことです。まっすぐ歩こうとしても、横にしか歩けないようになり、立とうとしても右手足を動かすことができなくなりました。歩行障害から8時間後に救急車を要請しました。割れるような頭痛からは、17時間後のことでした。

この様な症状の時は、一刻も早い受診をと分かっていたはずなのですが、「私は、まだ脳卒中で倒れるような年齢ではない、疲れているだけ、ちょっと休めばよくなるはず」と高をくくっていました。

急性期病院で、リハビリ病院に転院したいと伝え、専門リハの適応ありと判断されて早期転院をすることができました。

「杖歩行がゴール、入院は長くなるんだらうな」と勝手に判断していましたが、各種の初期評価の後、鳥谷先生は、「ADLすべて自立・復職がゴール、入院は1カ月」とおっしゃいました。

正直、びっくりしました。ゴールを明確にして頂き、「頑張れば、出来るかも」と、少し希望を持ちました。

入院中には、介護される側の難しさも実感しました。訓練リハから、社会復帰後の生活を意識してのリハに変わる頃、横柄にならず、しかも卑屈にならずというスタンスを保つことは、とても難しいことと感じました。

時間の経過とともに、できなかったことがいつの間にかできるようになっていたり、逆に「今日はジョンと起きられるかもしれない」と淡い期待を抱きながら、やっぱり無理で現実に戻されることもあります。階段の上り下りがこんなにも大変なものかと思うこともしばしばです。発症時と同様の頭痛が起きると、強

い不安に襲われることもあります。

福祉の仕事に携わる私ですが、自分を責めたり、気持ちが悪んだり、家族にわがままを言ったりすることもあり、心理的なコントロールは、未だ困難な事です。病気を受け入れ、適応しつつも、行きつ戻りつしているという現状です。

しかし、病気をしたこと、一皮むけたように感じており、仕事に関する考え方も親念的にとらえることが、少なくなつたように思います。

勤

務しているケアハウスには、50名の方々が生活しておられます。要支援・要介護の方が36名という状況です。ホールの掃除中、杖や歩行器を使用している方々とお会いします。エレベーターの閉まり方がもう少し緩やかになればと、開閉時間の調整を行いました。

また、私が企画部長を務める高齢者専用賃貸住宅「シニアハウス ひこばえ」では、自身の経験から、AED導入を提案しました。加えて、特養並みの看護体制を目指し、巡回看護や在宅診療に熱心な病院等との連携を進めている所です。

この様に私自身、入居者目線に立った取り組みを行っているつもりです。

ありさたりの言葉ですが、規則正しい生活が大切と実感しています。笑いが免疫力を高めることはよく知られています。職場や家庭でも、太陽のようでありたいと思っています。私が、今こうやって生活できるのは、病院関係の皆様のお力添え、職場の理解、家族の協力等があったことです。感謝の気持ちを忘れず、自分だからできることを、発信し続けていきたいと思っています。

杉町 文子

Essay エッセイ

知ろうde銀屋

たかの ふせ たろう 労組の先駆者・高野房太郎



わが国初の近代的労働組合を設立し、生協運動の創設にかかわった人物をご存知でしょうか。その人、高野房太郎は明治元年(1869)、長崎市銀屋町に生まれました。

高野家は代々、武士の袴(かみしも)をつくる「仕立屋の親方」でしたが、明治維新で東京に移住し、旅館兼回漕店を始めました。しかし、上京後間もなく、父親が死に家が全焼する二重の不幸に見舞われ、房太郎は10歳にして戸主となります。高等小学校を卒業すると、伯父の家で働きながら英語を学び、17歳で渡米しました。

房太郎は8年間、アメリカで外国人出稼ぎ労働者として働きながら仕送りを続け、のちにNHK会長となる、弟・岩三郎を東京大学で学ばせました。一方で、人々の豊かさに強い印象を受け、それを支える労働組合運動に興味を覚えます。

明治24年(1891)、友人らと「職工義友会」を組織し、アメリカ労働総同盟(AFL)のゴンパース会長に教えを乞いました。ゴンパースは、房太郎の熱意と労働運動に関する知識に感銘を受け、彼をAFL

のオルグに任命しています。

帰国後、職工義友会を再建し、明治30年(1897)、労働組合期成会を結成します。参加者の多くは金属・機械工で日本最初の労働組合、鉄工組合を組織しました。また、生活協同組合運動として共働店を設立しましたが、その多くは存続できませんでした。当時、日用品はツケで買うのが普通でしたので「現金主義」を守れなかったためです。鉄工組合は、最盛期には5000人余の組合員を有し、関東を中心に、東北、北海道にも組織を拡大しました。しかし、警察は運動を圧迫、屋外集会を禁止し、演説会でも弁士や聴衆を威圧しました。明治33年(1900)の「治安警察法」は事実上、労働組合運動を禁止するものとなり、経営者側も組合員を辞職に追い込んだため、鉄工組合は数年で衰えてしまいました。

房太郎は運動の前途に失望し、同年、城常太郎とともに中国に渡り、貿易業などに従事しましたが成功せず、病を得て明治37年(1904)、青島で35歳と2カ月の生涯を終えました。

今では労働者の権利が守られることは当たり前になりましたが、高野房太郎らの運動がその礎となっていることを心に留めておきたいものです。

参考文献: 法政大学大原社会問題研究所大原テシタカリユニシアム「高野房太郎と労働組合の誕生」
http://cochara.niitama.ac.jp/okano/index.html
労働は神聖なり、結合は勢力なり - 高野房太郎の時代(労働者誌 2009年)
http://okano.niitama.ac.jp/okano/okano-education.html
補完サイト: 法政大学大原社会問題研究所



そば処 桃山

住所 長崎市鍛冶屋町1-2 TEL 095-823-4671
営業時間 11:00~14:30(売り切れ次第、終了) 店休日 水曜・日曜日

鴨南蛮 (1,000円)がオススメです!

入り口や店内だけでなく車いす対応のトイレを持つ、本格的なバリアフリーのお店。店主が以前、老人ホームなどで蕎麦をふるまうボランティアをしていた頃から、店をつくる時は、こうしようと考えていたそうです。年配者に合わせた少し小さめの丼もあり、味だけでなく、そうした細やかな心遣いが、常連客が多い理由でもありそうです。もちろん、蕎麦は、店主が全国各地のそば粉を吟味し、打ったもの。店主一人で作っているため、売り切れ次第、閉店になります。



マリちゃんの 食べてみゆう de うまがもん 第5回「そば処 桃山」に行くの巻